

特定非営利活動法人日本火山学会 2020 年度秋季大会プログラム

期 間：2020 年 10 月 8 日（木）～ 10 月 10 日（土）（学術講演会）

会 場：オンライン開催

責任者：2020 年度秋季大会実行委員会 山岡耕春委員長

【口頭発表スケジュール】

10 月 8 日（木）	午前 (9:00 ～ 10:15)	地殻変動
	午前 (10:35 ～ 12:05)	火山の地震
	午後 (12:50 ～ 13:50)	ポスターセッションコアタイム
	午後 (14:00 ～ 15:30)	地下構造
	午後 (15:50 ～ 17:35)	火山ガス
10 月 9 日（金）	午前 (9:00 ～ 10:15)	火山の地質学 1
	午前 (10:35 ～ 12:05)	火山の地質学 2
	午後 (12:50 ～ 13:50)	ポスターセッションコアタイム
	午後 (14:00 ～ 15:30)	桜島火山
	午後 (15:50 ～ 17:35)	モニタリング
10 月 10 日（土）	午前 (9:00 ～ 10:15)	火山の岩石学 1
	午前 (10:35 ～ 12:05)	火山の岩石学 2
	午後 (12:50 ～ 13:50)	ポスターセッションコアタイム
	午後 (14:00 ～ 14:50)	記念講演
	午後 (15:10 ～ 16:55)	噴出物とその運搬

※一人あたりの講演時間は 15 分ですが、3 分は質疑応答時間として残すようにしてください。

【ポスター発表スケジュール】

- ・コアタイム：10 月 8 日（木）12:50 ～ 13:50
- 10 月 9 日（金）12:50 ～ 13:50
- 10 月 10 日（土）12:50 ～ 13:50

10月8日(木) 午前

地殻変動

座長：青山 裕

- 9:00-9:15
O1-01 草津白根山・浅間山の火山性地殻変動モデリング (2014-2020) ※宗包浩志
- 9:15-9:30
O1-02 GNSS観測および水準測量による地盤変動からみた始良カルデラ下の圧力源の統合解析 — 2017年-2019年— ※味喜大介・筒井智樹・井口正人
- 9:30-9:45
O1-03 Unrest Episodes at Domuyo and Laguna del Maule Volcanic Complexes, Southern Andes, Revealed by Time-series InSAR Analyses. ※◎Micaela Colavita・三浦 哲・森下 遊
- 9:45-10:00
O1-04 三宅島火山の地殻変動と圧力源推定(2013~2019年) ※◎渡部陽奈・松島 健・福井海世・渡邊篤志 及川 純・奥田 隆・小澤 拓・宮城洋介
- 10:00-10:15
O1-05 PALSAR/PALSAR-2による三宅島カルデラの定常沈降の時空間変化 ※姫松裕志 青木陽介・小澤 拓

10:15-10:35 休憩

火山の地震

座長：青山 裕

- 10:35-10:50
O1-06 特異な津波を引き起こす鳥島近海の火山性地震の物理メカニズム：海底カルデラ火山における Trapdoor 型断層破壊 ※三反畑修・綿田辰吾 佐竹健治・金森博雄・Luis Rivera・Zhongwen Zhan
- 10:50-11:05
O1-07 ストロンボリ火山 2019年7月爆発的噴火の前駆的傾斜変動 ※◎石川 歩・西村太志 Maurizio Ripepe
- 11:05-11:20
O1-08 新燃岳 2008年噴火に伴って発生した火山性地震の特徴：震源分布とb値の時間変化 ※及川 純・田島靖久
- 11:20-11:35
O1-09 2018年本白根山噴火時の傾斜を伴う長周期地震の波形インバージョン ※◎高橋龍平・前田裕太 渡辺俊樹
- 11:35-11:50
O1-10 クラック固有振動の数値計算に基づくガレラス山(コロンビア)での低周波地震の励起過程推定 ※◎田口貴美子・熊谷博之 前田裕太・Roberto Torres
- 11:50-12:05
O1-11 ガレラス火山(コロンビア)における低周波地震の発生過程：減衰調和振動型(N型)と非調和振動型(B型)の違いについて ※熊谷博之 Roberto Torres

10月8日(木) 午後

地下構造

座長：中道治久

- 14:00-14:15
O1-12 阿蘇火山の3次元比抵抗構造の異なる手法による再解析 ※松島喜雄・宇津木 充・高倉伸一 山崎 雅・畑 真紀・橋本武志・上嶋 誠
- 14:15-14:30
O1-13 雲仙火山地域の3次元地震波速度構造—マグマ供給系のイメージング— ※◎宮野幹大・清水 洋 相澤広記・松島 健・志藤あずさ

- 14:30-14:45
O1-14 Hydrothermal system of volcanic island inferred from magnetotellurics, seismicity, self-potential and thermal image: the example of Miyakejima ※ Marceau Gresse・Makoto Uyeshima Takao Koyama・Hideaki Hase・Koki Aizawa Yusuke Yamaya・Yuichi Morita・Derek Weller Twat Rung-Arunwan・Takayuki Kaneko Yoichi Sasai・Jacques Zlotnicki・Tsuneo Ishido Hidek Ueda・Miki Hata
- 14:45-15:00
O1-15 広帯域 MT観測により推定される草津白根火山の地下比抵抗構造(1) ※◎松永康生・神田 径 高倉伸一・小山崇夫・西澤達治

15:00-15:15

O1-16 3次元比抵抗モデルから推定される雌阿寒岳の地下構造
※◎井上智裕・橋本武志
田中 良・山谷祐介

15:15-15:30

O1-17 歴史的な発見：東北沖太平洋超深海底の爆裂火口(マール)
※石井輝秋・平野直人・金子 誠
町田嗣樹・佐藤勇輝

15:30-15:50 休憩

火山ガス
座長：中道治久

15:50-16:05

O1-18 リモートセンシングを用いた SO₂ 定量手法の現在地
※風早竜之介・Mike Burton
Ben Esse・Matther Varnam
Giuseppe Salerno

16:05-16:20

O1-19 火山噴煙中の水蒸気の同位体組成定量
※角皆 潤・伊藤昌稚・新宮原諒
中川書子・高橋幸士・横尾亮彦

16:20-16:35

O1-20 フェリーによる南西諸島離島火山の二酸化硫黄放出率観測
※森 俊哉・井口正人
福岡管区気象台

16:35-16:50

O1-21 箱根火山における噴気組成 (CO₂/H₂S 比) 変化速度と火山活動強度の関係
※代田 寧・大場 武
谷口無我・十河孝夫・原田昌武

16:50-17:05

O1-22 草津白根火山周辺の噴気ガス・温泉ガス中の希ガス同位体組成
※小長谷智哉・角野浩史
外山浩太郎・川名華織・山根康平
大場 武・谷口無我・寺田暁彦

17:05-17:20

O1-23 えびの高原硫黄山火山ガス組成と2018年水蒸気噴火の関係
※大場 武・谷口無我
角皆 潤・伊藤昌稚・新宮原諒

17:20-17:35

O1-24 霧島火山群における火山ガスのヘリウム同位体比の時空間変動
※角野浩史・外山浩太郎
小長谷智哉・滝口孝寛・大場 武・谷口無我

10月9日(金) 午前

火山の地質学 1
座長：下司信夫

9:00-9:15

O2-01 「液化化」ですべる話 2 題：1792年雲仙眉山崩壊と1783年浅間山鎌原土石なだれ
※津久井雅志

9:15-9:30

O2-02 トレンチ調査による最近14000年間の雌阿寒岳の噴火史の再検討
※佐藤鋭一・和田恵治
南 裕介・石塚吉浩・中川光弘

9:30-9:45

O2-03 粒子の形状と透過性による火山灰の初期記載方法の開発
※野口里奈・下司信夫
庄司大悟・日野英逸

9:45-10:00

O2-04 富士火山北麓に分布する最新期テフラの層序
※◎古屋海砂・吉本充宏・馬場 章・長谷川 健

10:00-10:15

O2-05 富士北麓地域における学校での火山防災教育について 教員を対象としたアンケート調査結果
※久保智弘・吉本充宏・藤巻桂吾
古屋和仁・宮城洋介

10:15-10:35 休憩

火山の地質学 2 カルデラ
座長：下司信夫

10:35-10:50

O2-06 北海道中央部、十勝岳火山群、スッカクシ火口域の活動履歴
※松本亜希子・中川光弘
小林卓也・石塚吉浩

10:50-11:05

O2-07 北海道東部、アトサヌプリ火山の過去2000年間の噴火履歴 一特に熊落とし火口の形成年代ついて一
※◎上野健太・中川光弘

11:05-11:20

O2-08 秋田駒ヶ岳火山南部カルデラの形成史
※◎田次将太・中川光弘・和知 剛

11:20-11:35

O2-09 蔵王火山丸山沢噴気地熱地帯の火山物質科学的研究
※井村 匠・伴 雅雄・常松佳恵
後藤章夫・岡田 純

11:35-11:50

O2-10 感度法による K-Ar 年代測定結果を用いた白山火山の形成史の再検討
※◎藤原 寛
山崎誠子・石崎泰男

11:50-12:05

- O2-11 始良カルデラ先カルデラ期に噴出した敷根溶岩に伴う苦鉄質降下火砕物の発見 ※◎西原 歩
下司信夫・成尾英仁

10月9日(金) 午後

桜島火山

座長：三輪学央

14:00-14:15

- O2-12 桜島火山における反復地震探査(2019年観測)
※中道治久・桜島反復地震探査グループ

14:15-14:30

- O2-13 人工地震探査データを用いた桜島火山の地震波速度変化の抽出 ※◎川辺智士・中道治久
桜島反復地震探査グループ

14:30-14:45

- O2-14 桜島火山における長期的重力増加：1975年～1992年 ※◎大柳 諒・風間卓仁
山本圭吾・井口正人

14:45-15:00

- O2-15 干渉SAR時系列解析による桜島の地盤変動
※三浦 哲・森下 遊・太田雄策・出町知嗣

15:00-15:15

- O2-16 GPS搬送波位相遅延量を利用した噴煙検知
— 2013年8月18日桜島噴火の解析—
※◎朝倉由香子・西村太志・太田雄策
加納将行・井口正人

15:15-15:30

- O2-17 1955年以降の桜島南岳爆発による火山岩塊について
※井口正人・山田大志

15:30-15:50 休憩

モニタリング

座長：三輪学央

15:50-16:05

- O2-18 大地震による火山噴火の誘発の要因 ※西村太志
16:05-16:20

- O2-19 データ活用と研究分野間連携に資する火山の状態
遷移図とイベントツリー ※上田英樹・廣瀬 郁
松澤孝紀・三輪学央・長井雅史・河野裕希

16:20-16:35

- O2-20 十勝岳の火山活発化指数(VUI)基準の試作
※橋本武志・青山 裕・田中 良
大倉敬宏・森 俊哉

16:35-16:50

- O2-21 地震波干渉法と局所外れ値確率を用いた地震波速度
変化および散乱特性変化の異常度評価
※廣瀬 郁・上田英樹・藤田英輔

16:50-17:05

- O2-22 秋田焼山1997年噴火における地震活動の再調査
※関 晋・丹原 裕・山村卓也

17:05-17:20

- O2-23 2020年飛騨山脈群発地震に伴うダイク貫入イベン
ト ※大見士朗・西村卓也・橋本 学

17:20-17:35

- O2-24 二次元ビデオディストロメーターによる降灰観測
(初期解析結果) ※佐藤英一・瀧下恒星
井口正人

10月10日(土) 午前

火山の岩石学 1

座長：嶋野岳人

9:00-9:15

- O3-01 富士山での石英に富むクリスタルマッシュ状捕獲
岩の発見 ※石橋秀巳・大塚芽久・田中佑希子
安田 敦・外西奈津美

9:15-9:30

- O3-02 東北日本弧北部、八甲田—十和田カルデラ群西部
で噴出した珪長質マグマの成因とその起源物質
※近藤 梓・相澤正隆・井村 匠
安井光大・緒方武幸

9:30-9:45

- O3-03 十和田火山におけるマグマ活動史：その1 カルデ
ラ形成期の岩石学的検討 ※佐藤勇輝
広井良美・宮本 毅

9:45-10:00

O3-04 十和田火山におけるマグマ活動史：その2 カルデラ形成期中の規模噴火 ※広井良美・佐藤勇輝
宮本 毅

10:00-10:15

O3-05 斜長石斑晶組成・組織からさぐる蔵王火山御釜火口活動期のマグマ供給系 ※◎佐藤初洋
伴 雅雄

10:15-10:35 休憩

火山の岩石学 2

座長：嶋野岳人

10:35-10:50

O3-06 クリスタルクロットを用いたプレ噴火過程の制約と噴火様式にもたらす影響の検討：雲仙火山の例 ※◎岩橋くるみ・安田 敦・石橋秀巳

10:50-11:05

O3-07 利尻火山における多様な玄武岩質初生マグマの成因 ※◎谷内 元・栗谷 豪・中川光弘

11:05-11:20

O3-08 十勝岳・雌阿寒岳の苦鉄質噴出物の組織解析による噴出過程の検討 ※◎藤丸 航・和田恵治
佐藤鋭一

11:20-11:35

O3-09 西之島カルデラ噴火の可能性 ※田村芳彦

11:35-11:50

O3-10 近年の西之島噴火における噴出物の特徴とその時系列変化 ※前野 深・安田 敦・外西奈津美
吉本充宏・金子隆之

11:50-12:05

O3-11 結晶に衝突する気泡の軌道を決定するパラメーターの推定 ※◎池田響子・寅丸敦志

10月10日(土) 午後

記念講演

座長：高木朗充

14:00-14:30

S-01 火山学の中での地質学・岩石学の進展 ※中川光弘

14:30-14:50

S-02 活動的火山における火山博物館運営の先駆的活動と、ジオパーク活動等を通じた火山学の多面的な普及啓発活動の実践 ※池辺伸一郎・岡田誠治

14:50-15:10 休憩

噴出物とその運搬

座長：鈴木雄治郎

15:10-15:25

O3-12 東・東南アジア地域の大規模噴火とハザード情報 ※宝田晋治・Joel C. Bandibas

15:25-15:40

O3-13 蔵王山東麓濁川・遠刈田地域の過去 8000 年間のラハール堆積物について ※◎川瀧弘之介
伴 雅雄・常松佳恵・片岡香子・井村 匠

15:40-15:55

O3-14 阿蘇山 2016 年 10 月 8 日噴火によるテフラの凝集作用および堆積過程 ※辻 智大・西坂直樹
大西耕造

15:55-16:10

O3-15 衛星 SAR を用いた降灰分布推定手法の研究（その4） ※小澤 拓・藤田英輔

16:10-16:25

O3-16 火砕物の移流拡散堆積過程の逆問題の数理構造とその応用に向けての考察 ※石井憲介・小屋口剛博

16:25-16:40

O3-17 faSavageHutterFOAMによる火砕流シミュレーション：雲仙 1991 年噴火への適用 ※志水宏行

16:40-16:55

O3-18 火砕流に対する透過型砂防堰堤の耐力変化に関する研究 ※堀口俊行・宮原邑太

ポスターセッション

ポスター発表・コアタイム	10月 8日	12:50 - 13:50
ポスター発表・コアタイム	10月 9日	12:50 - 13:50
ポスター発表・コアタイム	10月 10日	12:50 - 13:50

P01	北海道尻別火山の地質と噴火史 島弧の‘イグニブルライトシールド’火山 ※後藤芳彦・三好正晃 檀原 徹・東宮昭彦	P18	伊豆大島火山における 1m 深地温測定 ～経験的手法による地熱兆候の検出～ ※鬼澤真也・石原昂典 平山康夫・松田健助・谷口無我・松島喜雄
P02	給源近傍層序からみた屈斜路火山 40 ka 噴火 (KpI) のカルデラ形成過程 ※柴田翔平・長谷川 健 渡部将太	P19	伊豆諸島, 神津島火山における過去 3 万年間の噴出量 ※村田昌則・小林 淳・青木かおり 高橋尚志・西澤文勝・鈴木毅彦
P03	雌阿寒岳ボーリングコア試料の帯磁率 ※島村哲也 小田啓邦・松本恵子・下司信夫	P20	一観測点データを用いた火山性微動の空振・地震要素識別方法の考案 硫黄島 2013, 2018 年イベントを例に ※黒川愛香・市原美恵
P04	大規模火砕流噴火における近傍相と遠方相との対比—洞爺カルデラ形成噴火の例— ※宮坂瑞穂 中川光弘	P21	小笠原硫黄島火山北東海岸部で 2019 年—2020 年に生じた噴火イベント ※長井雅史・三輪学央 上田英樹・小林哲夫
P05	岩手火山, 青山町岩屑なだれ堆積物の崩壊源 ※土井宣夫	P22	2019-2020 年西之島噴火: 島内の地震計・空振計による観測 (序報) ※大湊隆雄・渡邊篤志
P06	鳥海火山における約 2500 年前の山体崩壊を伴う噴火活動 ※大場 司・林信太郎・近藤恵太 遠藤雅宏・原 優人・河井光次郎 伴 雅雄・井村 匠・南 裕介・中川光弘	P23	父島での空振観測による西之島の噴火活動の把握 ※市原美恵・西田 究・金子隆之
P07	テフラ層序からみた 5000 年間の新潟焼山火山・妙高火山の噴火履歴 ※Faiz Wildan Mukhallad・石崎泰男	P24	2.5mDEM を使用した西之島の微地形解析 成層火山の内部構造解析へむけて ※千葉達朗
P08	長野県東部, 志賀火山の形成史 (2) ※村上翔大 石崎泰男	P25	空中ドローン磁気観測による西之島の磁化構造 ※多田訓子・市原 寛・中野 優 宇津木 充・小山崇夫・馬場聖至 高木朗充・前野 深・武尾 実
P09	日光火山群三岳火山の完新世噴火活動 ※草野有紀 及川輝樹・石塚吉浩・山元孝広・中村洋一	P26	紀伊半島中央部での中新世玄武岩質マグマ ※佐藤隆春
P10	富士火山の溶岩チューブ洞窟形成時の溶岩温度の同定 ※本多 力	P27	中国地方・黒岩高原玄武岩の岩石学的特徴とマグマ含水量の推定 ※塩崎紗希・柵山徹也
P11	富士山・東臼塚南溶岩流の流動停止時の降伏値, 温度, 粘性係数の推定 本多 力・※勝間田隆吉 畑中 将・川村一之	P28	横田玄武岩の岩石学的・地球化学的特徴 ※桐敷 和・柵山徹也・木村純一
P12	赤色立体模型を用いた富士山プロジェクションマッピング ※江川 香・佐々木 寿・千葉達朗 佐野実可子・阪本知典・岸本英一・小林 淳	P29	阿蘇火山における短周期微動のアレイ解析による震源の推定 ※田中裕隆・大倉敬宏 井上寛之・吉川 慎
P13	GNSS データの Elastic Net インバージョンに基づく膨張力源の 3 次元分布推定: 2008–2010 年富士山膨張イベントの例 ※三井雄太	P30	阿蘇山 2019–2020 年灰噴火において凝集作用が火山灰の粒度分布に及ぼす影響 ※鈴木花梨・辻 智大
P14	富士火山の連続テフラ層で観察された石基組織の急変事象について ※安田 敦・田島靖久	P31	霧島新燃岳・1716-1717 年享保噴火軽石の組織観察及び化学分析 ※香川あかり・寅丸敦志
P15	富士火山北東麓のテフラ識別手法の検討 ※亀谷伸子・吉本充宏	P32	霧島新燃岳 2011 年噴火で放出された HCl の見積もり ※野上健治・森 俊哉
P16	富士火山, 大室スコリアの岩石学的研究 ※遠藤公喜・鈴木皐暉・石崎泰男 吉本充宏・馬場 章	P33	湧水・2018 年噴火口跡熱水の化学組成変化から見た霧島山 (硫黄山) の熱水活動 ※谷口無我 大場 武・福岡管区気象台 鹿児島地方気象台・宮崎地方気象台
P17	VIRTUAL SHIZUOKA で見る伊豆東部火山群 ※鈴木雄介・小山真人・杉本直也	P34	霧島火山, えびの高原 (硫黄山) 周辺の地熱活動と防災対応 ※田島靖久・中田節也

P35	霧島硫黄山噴火後の熱水化学組成の経時変動 ※石橋純一郎・山下 慧・森 啓悟 松島 健・益田晴恵・大嶋将吾	マダイナミクス	※小園誠史
P36	霧島ジオパークにおける重要露頭の保全と活用 ※石川 徹	P51	JVDN システムの開発の経過 ※上田英樹 廣瀬 郁・松澤孝紀・三輪学央 長井雅史・河野裕希
P37	始良カルデラ形成噴火の噴出物の組織分析 ※緒方美季・寅丸敦志	P52	地方自治体における噴火災害対策のためのリスクス コアリング ※宮城洋介・河野裕希・岩井一郎
P38	主成分分析に基づくバルク火山灰測色値変化の考察 —桜島昭和火口 2009-2015 年活動について— ※嶋野岳人・安田 敦・井口正人 上木賢太・桑谷 立	P53	火山ハザードマップを用いた曝露評価 ※河野裕希 宮城洋介・藤田英輔・岩井一郎 高橋佳子・中田節也
P39	Source location of volcanic tremors at Sakurajima volcano using seismic correlation-based methods ※ Theodorus Permana・西村太志 中原 恒・Nikolai Shapiro	P54	火山表面現象遠隔観測技術 (SPIC-C) の開発 ※實淵哲也・三輪学央・長井雅史
P40	2020 年タール火山噴火に伴う地殻変動とその一解釈 ※橋本 学	P55	多孔質な火山岩の粉砕特性と岩石組織 ※竹内晋吾
P41	インドネシアのククサン山・ロティ山における噴火 様式と火道ダイナミクス ※光岡 健・寅丸敦志	P56	H ₂ O-KCl-CO ₂ を用いたマグマ冷却結晶化発泡のアナ ログ実験 ※藤村志穂・寅丸敦志
P42	マサヤ火山の不思議な火山ガス組成 平衡温度から示 唆される酸化作用 ※風早竜之介・篠原宏志 Matthew Varnam・Ben Esse Mike Burton・Martha Ibarra	P57	成層マグマ溜まりにおける結晶沈降のモデル化 ※西村光史
P43	オリンポス山山頂 カルデラ の形成過程 ※中村茉由子・辻 智大	P58	大規模噴火における斑晶量と前駆活動の推移 ※金田泰明・宝田晋治
P44	波形を用いた火山性地震分類の自動化の検討 ※藤田英輔・井田喜明	P59	ラマン分光法による流紋岩質ガラスの含水量測定手 法の開発 ※松本恵子・山田伊久子 下司信夫・斎藤元治
P45	地震波動場連続解析システムにおける地震波干渉法 解析 ※山本 希	P60	火山砕屑物の調査におけるハイパースペクトルイ メージの活用 (その 2) ※小野秀史・藤原康正 嶋 将志
P46	有限要素法による火山性地殻変動に与える地形の影 響の検討 ※坂尾健有・中尾 茂	P61	簡易型溶岩流計算モデルによる水域に進行する溶岩 流の挙動に関するモデル化の試み ※石峯康浩 吉本充宏
P47	有限要素法を用いた火山の地殻変動計算と力源推定 ※山田晋也・小林知勝	P62	降下テフラのリアルタイム粒径分布観測手法の提案 ※入山 宙
P48	境界要素法による火山周辺の地殻変動計算システム の開発 ※川口亮平	P63	航行障害を対象とした火山灰濃度の移流拡散モデル 解析 ※中谷 剛・浅野敏之
P49	熱水供給率変化と噴気火道浸透率変化に対する地盤 変動のモデリング ※田中 良・橋本武志 成田翔平	P64	気象予測モデルを併用した新しい二酸化硫黄放出率 推定手法の開発: その 2 ※橋本明弘・森 健彦 新堀敏基
P50	連結する 2 つのマグマ溜まりにおける噴火中のマグ	P65	パソコンを対象とした降灰の影響に関する予備実験 ※久保智弘・吉本充宏・宮城洋介
		P66	マントル火山とフロント火山 ※橋場 明